

# 2021 年度 千葉明德中学校入学試験（適性検査型入試）

2021 年 1 月 20 日

## 適性検査 I

### じこう 注意事項

始まりの指示があるまで、下の注意をよく読んでおくこと。

1. 始まりの指示があるまで問題用紙や解答用紙に手をふれてはいけません。
2. 問題用紙は 1～14 ページ，解答用紙は両面 1 枚です。
3. 試験時間は 45 分間です。
4. 問題は  と  があります。
5. 問題の内容についての質問はできません。
6. 携帯電話，電卓，計算機能付き時計など電子機器類を使用してはいけません。
7. 困ったこと（筆記用具を落としたときなど）があったら，だまって手をあげなさい。
8. 持ち物を貸したり，借りたりしてはいけません。
9. 答えはすべて，解答用紙に記入しなさい。





1 次の会話文と図表は、彰司君と明さんがグローバルゼーションについて教えあっているものです。以下の設問に答えなさい。

## 会話文

明さん 彰司君、今回のテストに向けて、前回の社会の授業で習ったグローバルゼーションについて一緒に復習しよう。

彰司君 うん！ 明さん、いつもありがとう。前はたしか、「①グローバルゼーションの過去・現在・未来」について習ったんだよね。

明さん うん、正直なところ、結構、難しかったわ。そもそも彰司君、グローバルゼーションってどんなものか、それが始まって世界がどう変わったか、覚えてる？

彰司君 もちろん！ グローバリゼーション以前の時代では、風力を活用した帆船による海上での移動・輸送や家畜を活用した陸上での移動・輸送が行われていたよ。この時代には、輸送する距離が長くなってしまうとコスト(費用)も多くなかかっていったんだ。だから、距離が制約となって、生産地(作る場所)と消費地(売る場所)は主に地域内で完結していたんだ。

明さん ええ、そしてグローバルゼーションとは、この制約を克服し、地球規模でお金や情報のやり取りが行われるようになることと考えることができるわ。制約は、第一に **A** を動かすコストで、第二に **B** を動かすコスト、第三に **C** を動かすコストの三つがあり、それぞれが地域を超えた交流の障害となっていたのね。これらの障害の克服は一度に全てが進展したのではなく、順次、克服されてきたのよね。

彰司君 まず、物資の移動コストが低下したときにグローバル化の第1段階は始まったんだ。アメリカを例に取ると、**図表1**に見るように、移動コストは十九世紀後半に鉄道の普及により劇的に低下したことが分かるね。

明さん 移動という観点から見ると、産業革命は移動手段を変革するものであったと言えるわ。蒸気船や鉄道が輸送手段の主役となることで、輸送時間は短縮され、輸送量を増加させることができるようになり、その結果、物資を効率的に運び、国境をまたいで生産と消費を分けることが可能になったのね。

彰司君 この取引が商品について当てはめられる場合、「貿易」と呼ばれるね。国際貿易としては、原材料や完成品の貿易が盛んになり、農業から繊維業や鉄鋼業等幅広い産業において、国際分業が本格化することになったんだ。

明さん 一方で、アイデアを移動させるためのコストはそれほど低下しなかったため、産業が先進国に集中してしまったわ。今日の先進国と発展途上国との間における発展の差は、これが要因の一つね。

彰司君 そして次に、1990年代からは情報通信技術の発展によって、アイデアの移動が可能となり、グローバル化のヨンは次の段階に入るんだよね。

明さん ええ、**図表2**に見るように通信コストが低下したことにより、アイデア（技術・データなど）の移動コストを低下させることができるようになったわ。それにより、先進国の企業は現地に行くことなく生産技術を発展途上国へ持ち込み、効率的な生産を実現したのね。

彰司君 つまり、物資と同様に工場が国境を越えるようになり、発展途上国の低い賃金水準を背景に先進国の技術と途上国の労働が結びつくようになった。そして、多くの国で生産が行えるようになったことで国際的な分業が進み、部品が国際貿易で多く取引されるようになったということだね。例えばパソコンとかは、色々な部品が世界中の工場で分業されて作られているね。

明さん　そして現在、グローバルゼーションは新たな段階に進んでいるわ。彰司君分かるかしら？

彰司君　うん。2015年頃ころから情報通信技術の進展がさらに加速したことを背景に、個人単位での国境を越えた仕事の分業ができるようになって世界規模でのバーチャルワークが実現しつつあるよ。

明さん　つまり、人が現地に移動するコストが以前よりも低くなるのね。

彰司君　職場に行かなくても、工場に行かなくてもバーチャルで働けるようになるのと、労働者一人ひとりが別の国でサービスを提供するようなことが今後ますます当たり前になるのかな。僕は将来どんな働き方をしてるんだろう。

明さん　確かなことは、現在世界で流行している新型コロナウイルスはこのグローバルゼーションの3段階目に移行している最中さなかに発生したということ。そして、**図表3**に見るようにオンラインでのコミュニケーションが急速に普及していることにより、今後②バーチャルワークの流れはさらに加速していく可能性があるということよ。

彰司君　もうグローバルゼーションは国単位の、会社単位の話ではなく、僕たち一人ひとりの話になってきているんだね。

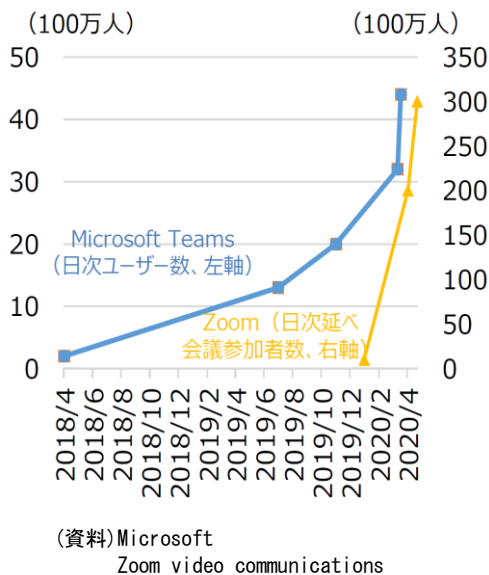
明さん　そうね。これから学校を卒業したあと社会でどう生きていくか考えるときには、「日本で」だけでなく「世界で」ということも考えなければいけないわね。とつても難しそう。

彰司君　一緒に考えようよ！　明さん、今日は勉強に付き合ってくれてありがとう！　おかげでかなり授業の内容がまとめられたよ。

明さん　こちらこそ。次回のテスト、一緒に頑張がんばろうね！

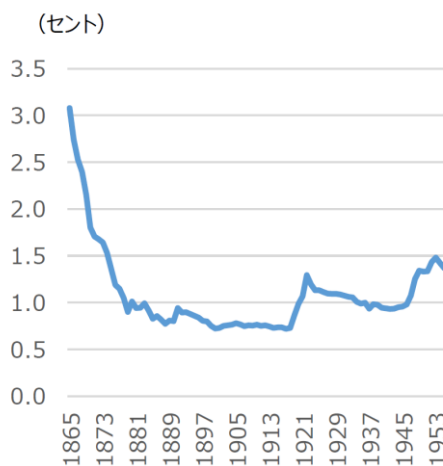
図表3

オンラインコミュニケーションツール  
(Teams及びZoom) の利用状況



図表1

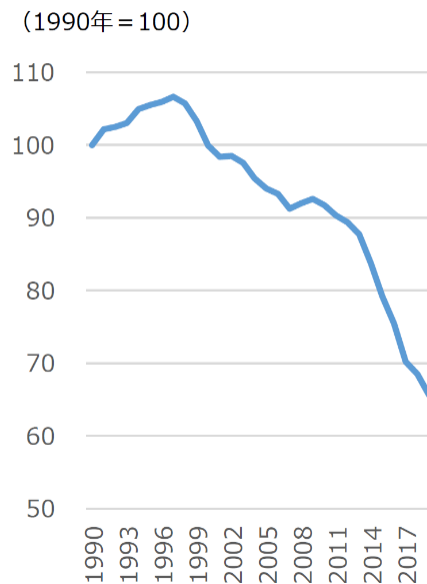
米国における移動コストの推移



(資料) セントルイス連銀 Fred  
(備考) 上記は米国における鉄道トン・マイル  
当たり収益の数値。

図表2

米国における通信コストの推移



(資料) セントルイス連銀 Fred  
(備考) 上記は米国 PCE 指数通信の数値。

(1) 傍線部①ぼうせんぶに関連して、グローバルゼーションとは何かについて、この課題文の内容を踏まえて説明しなさい。

(2) 空欄 

A
---

 ・ 

B
---

 ・ 

C
---

 にそれぞれ入る適切な語句を、本文中から抜き出しなさい。

(3) 傍線部②の例として**間違まちがっているもの**を、次の**ア**～**エ**のうちから一つ選びなさい。

- ア** 東京にいる日本の技術者が南アフリカに設置した高度なロボットを遠隔えんかく操作し、現地の設備を修理する。
- イ** 日本のアイデアをアフリカの国々が取り入れて、産業を発展させる。
- ウ** 会議や話し合あひいは全てオンライン上で行えるため、日常の仕事は全て自宅内で行っている。
- エ** 様々な国の人々が、それぞれの国にしながら共通の仕事に対してリアルタイムに協力して取り組む。



問題文は次のページに続きます。

2 次の本文(Ⅰ)～(Ⅲ)と図を参考に、(1)～(3)の設問に答えなさい。

(Ⅰ)

ナイト・シヤマラン監督の『ヴィレッジ (注1)』(二〇〇四年、アメリカ)という映画を見たことがあるだろうか。

主人公の盲目の少女アイビーが暮らす村は、深い森に囲まれ、村人たちが家族のような深い絆きずなで結ばれながら平和に暮らしている。村には「森に入ってはならない」という古くから伝わる掟おきてがあり、そこに住むモンスターを恐れる村人たちはこの言い伝えを忠実に守って暮らしていた。

やがて物語がすみ、アイビーはたった一人でモンスターが住む森を通り抜けなければならなくなる。そしてそこから、村を取り囲む恐怖の森の正体が明らかにされてゆく。

「**A**」は実は、村人によって作り上げられたまやかしだった。外敵に怯える村人たちは、決して真実を見ないよう巧妙こうみょうにコントロールされていたのだ。

本当に必要な情報から遮断しやだんされた彼らは、実態のない「敵」に対する恐怖に支配され、判断力を失い、何も考えず「掟」にしたがってさえいれば安全だと信じこんでいた。だがそれはゆがんだ力が作り出した、幻想げんそうの「**B**」だったのだ。

この手法は人間の歴史のなか、繰り返し使われてきた最もオーソドックスおとどくす (注2) なものだろう。国籍こくせきや宗教、肌の色にかかわらず、うまく適用すれば絶大な効果を上げられる。

## (II)

一行ニュースの便利さは、そのシンプルさにある。たとえばヤフーの画面を開けば、さまざまなテレビや新聞のニュースがタイトルごとに並んでいる。興味をひかれるタイトルをクリックすると記事の全文が読め、「毎日新聞」「TBSニュース」など局や新聞社の社名まで書いてある。

ある女子大生は私に言った。

「新聞なんてとる必要はないですよ。かさばるし指も黒くなるし、古新聞はゴキブリを叩くくらいしか使い道はないくせにスペースばかりとって部屋が狭くなる。携帯一台持っていれば、大事な情報は手に入る時代なんですから」

だが一行ニュースにも落とし穴がある。

まずはその見出しだ。どの検索サイトもアクセス数を増やすために、それぞれの記事にはできるだけ人々の関心を引くようなタイトルをつける。真面目だったり地味なものよりは、センサーシヨナル（注3）で人々の好奇心を刺激するものの方が効果が高い。電車の中に下がっている中づり広告をイメージすればよくわかるだろう。

更にインターネットの中のサイト同士は一人でも多くのユーザーにクリックさせることを競うため、ニュースの見出しは果てしなく過激になってゆく。とるに足らない内容でも、刺激的なタイトルさえついていけば人はついクリックしてしまうからだ。（中略）

一行ニュースに印象操作されないためには、やはりそれと同じ内容の報道をテレビやラジオ、雑誌や本、ロコミなど他の媒体や方法で再チェックすることが大切だ。

(III)

ネットが国境を消しつつある今、語学力は何よりも最大の武器になる。

何カ国語もぺらぺらにならなくてもいいが、英語だけは簡単な文章を読めるくらいにしておこう。発信や不特定多数の人との意見交換こうかん、ネットワークづくりなども、英語が読めればいつきに世界レベルに拡大する。

ニュース一つとっても、日本の新聞やテレビだけ見るのではなく、世界中の新聞やテレビ番組を比べられるからだ。たとえばオバマ大統領がノーベル平和賞を受賞した時、日本のマスコミは「平和への第一歩」と絶賛したが、世界各国の報道を読むと決して好意的なものばかりではなかったのがわかる。その理由を自分で調べれば、アメリカについて、平和という問題について、世界でどんな考え方がされているのか、そしてその裏に何があるかが理解できるだろう。

長崎で出会ったある大学生は私にこう言った。

「僕は被爆地長崎の学生として、高校生の時から原爆の悲惨ひさんさや、核廃絶かくはいせつの大切さをずっと訴え続ける活動をしてきました。学校も地域もこうした平和活動にはとても力を入れているし、学生を支えてくれる。でもある時韓国からの交換留学生と友だちになって、彼かれからこう言われたんです。日本が世界からどう見られているかも知った方がいいよって。ショックでした。それまで平和を外に向かって訴えることで満足していて、そんなこと考えたこともなかったからです」

「世界の反応を調べたんですか？」

「はい。英語はそんなに得意というわけではなかったんですが、彼に教えてもらいながら世界のいろんなサイトにアクセスしてみました。日本語に翻訳ほんやくされているものも少しはあったけど、英語が得意な彼への対抗心たいこうしんから、一晚中辞書を引いて

読んで読んで。

世界の核の状況や被爆者が拡大していること、同年代のアメリカ人やアジア人が日本人のことをどう思っているのか。日本のサイトに載<sup>の</sup>っているものと英語のサイトとは内容が違<sup>ちが</sup>っていた。

それからちよくちよく英語ニュースをのぞくようになった。彼の教えてくれた英語の掲<sup>けいじ</sup>示板に参加したりもするうちにだんだん面白<sup>おもしろ</sup>くなってきたんです。日本のニュースが本当に一部しか伝えていないことも、よくわかりました」

「友だちも作りましたか？」

そう聞くと彼はうーん。と頭をかいた。

「辞書を引きながら読むので時間がかかるし、まだそこまでは自身があるわけじゃないから……。でもツイッターの英語版に登録して、短いニュースを読むようになりましたよ。あれは一四〇字で楽だから。韓国の彼もやってるから、フォローさせてもらってるんです」

ネットワークも世界中の人々と作れば、仲間の数は果てしなく広がってゆく。

堤未果『社会の真実の見つけかた』（岩波ジュニア新書）より（都合により一部改変）

注1 (ヴェレッジ) ……「村、村落」という意味の英語。

注2 (オーソドックス) ……伝統的で、一般的に正統的であると認められているさま。

注3 (センサーシヨナル) ……人の気持ちをあおりたてるさま。世間の強い関心を呼ぶさま。

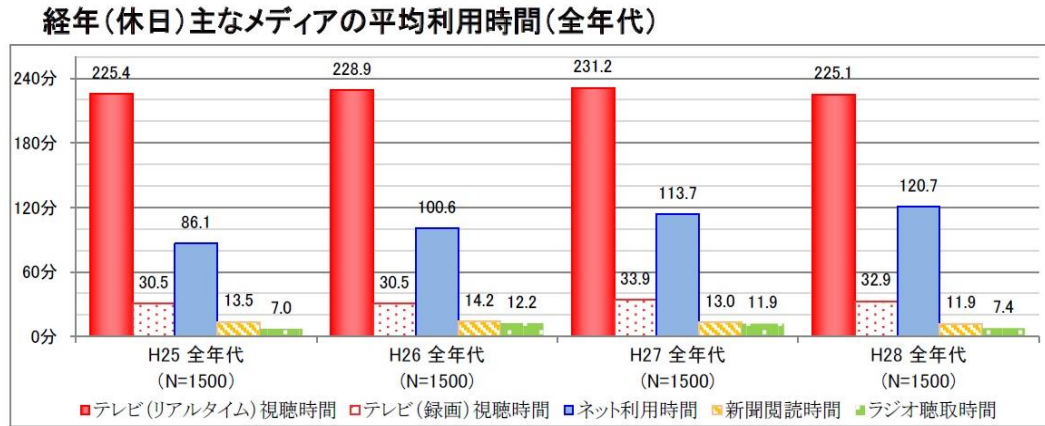
(1) 本文における空欄<sup>くうらん</sup> **A**・**B**のそれぞれに最も適する語を、次の**A**～**E**の中からそれぞれ選びなさい。

**A** モンスター    **I** ヴェレッジ    **ウ** 捷    **E** 平和

(2) 本文で述べられている、語学力を身につけることの利点を**五〇字以内**で述べなさい。

(3) 本文と図を参考に、あなたが情報にまどわされてしまった経験か、もしくは何らかの情報により社会が混乱した事例を述べ、また、それを防ぐためのあなたなりの対策について、**四〇〇字以内**で説明しなさい。

図 主なメディアの平均利用時間と平成 25～28 年での経年変化(13～69 歳までの男女 1500 人が回答)



出典：総務省・情報通信政策研究所「平成 28 年 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」